



技術と行政をつなぐ「翻訳者」として

総務省情報流通行政局衛星・地域放送課
地域放送推進室技術係長

佐藤 惟知 SATO Yuichi

平成 29年 4月 総務省採用
同 情報通信国際戦略局技術政策課研究推進室
9月 同 国際戦略局技術政策課研究推進室
平成 30年 4月 併任 総合通信基盤局電波部電波政策課
7月 併任 総合通信基盤局電波部電波政策課電波利用料企画室
令和 元年 7月 同 総合通信基盤局総務課 併任 大臣官房総務課
令和 2年 8月 同 総合通信基盤局総務課総括係長
令和 3年 7月 現職

我々は翻訳者である

これは最初の部署で上司から聞いた印象深い言葉です。最初に着任したのは先端技術の研究開発を担当する部署でした。総務省の研究開発事業は、その道のプロフェッショナルである大学や事業者に委託する形で実施されますが、その原資である予算獲得のために、技術の素人である財政当局にその重要性を理解してもらう必要がありました。技術のプロと予算のプロという異なる言語圏の間に共通の価値認識を成立させる、冒頭の言葉はそんな役割を端的に表現するものでした。その後5年弱経って既に6部署を経験してきましたが、これは役人の真髄でもあると最近思うところです。

さて、総務省テレコムの醍醐味は日進月歩の情報通信技術に行政の立場から携われるところにあります。私が小学生だった頃にはまだガラケーすら持っていませんでしたが、今の小学生はPCすら飛び越してスマホやタブレットが当たり前の世界に住んでいます。たった数十年でこれだけの変化が起こ

る情報通信業界ですが、このダイナミックな変化に適応するように法制度をアップデートしたり予算を措置したりと、様々な行政ツールを駆使して社会課題を解決するのが総務省の大きなミッションだと言えます。

「翻訳者」としての役人

このミッションを達成するために、総務省ではたくさん役人がいる異なる部署・分野で活躍しています。私もこれまで研究開発、法改正、総括、許認可といった様々な業務を経験しましたが、どこに行っても「翻訳者」としての素養が重要であったと感じています。役人の本分である国家プロジェクトの推進のためには、別の部署、別の役所、外部有識者、業界人などいろんな人の協力が不可欠であるため、冒頭に述べたところの「異なる言語圏」の人たちを巻き込み、合意を形成する調整が肝になります。こうして自分の翻訳作業のアウトプットが周りを巻き込んだ大きな国家プロジェクトとして世の中を変えていくことを実感できる瞬間が、この仕事の最も

りがいを感じるタイミングです。一見何をしているのかわかりにくい役所ですが、中の人は普段からこの翻訳作業と翻訳に必要な知識のアップデートにエフォートの多くを割いています。日々新しい知見を得て視野が広がる感覚は非常に心地よいもので、これを味わえるのは変化の多いこの業界ならではのでしょう。総務省には良き「翻訳者」になるための環境が整っていますので、「我こそは」というその貴方、是非一緒に仕事しましょう。



ネバダ州ラスベガスのカンファレンスにも出張して、情報収集します

在サンフランシスコ
日本国総領事館領事

大村 朋之 OMURA Tomoyuki

平成 24年 4月 総務省採用
同 情報通信国際戦略局技術政策課
平成 26年 8月 同 総合通信基盤局電波部移動通信課新世代移动通信システム推進室システム開発係長
平成 28年 7月 同 総合通信基盤局電波部電波環境課認証推進室国際認証係長
平成 30年 8月 同 情報流通行政局情報通信政策課課長補佐
令和 元年 6月 外務省在サンフランシスコ日本国総領事館副領事
令和 2年 4月 現職



パッサウ大学

竹淵 翔矢 TAKEBUCHI Shoya

平成 26年 4月 総務省採用
同 総合通信基盤局電波部移動通信課
平成 27年 8月 同 総合通信基盤局電気通信事業部電気通信技術システム課安全・信頼性対策室
平成 29年 4月 同 総合通信基盤局電気通信事業部消費者行政第二課主査
平成 30年 4月 同 総合通信基盤局電波部電波政策課係長
令和 2年 8月 同 総合通信基盤局電波部電波政策課課長補佐
9月 現職

最先端のビジネスフィールド シリコンバレーより

世界を動かすイノベーションの発信地シリコンバレーは、パンデミックにより変化したと思いますか？

私はパンデミック前より外務省の在サンフランシスコ日本国総領事館に外向し、総務省での業務経験を活かしながら働いています。国別GDP世界第5位に相当する米国西海岸カリフォルニア州は米国経済のけん引役で、そのビジネス中心地の一つであるシリコンバレーをベースに情報収集や企業支援などを担当しています。

Google、Appleなどの巨大IT企業やスタートアップ企業が以前より有名ですが、パンデミック後にはテレワーク環境に即適応し、過去最高の利益・投資額を達成するなど、彼らのエコシステムの底力をより強く実感しています。また、メディア掲載される企業はごくわずかですが、実はもった

くさんの起業家が成功を目指してチャレンジしている他、新サービスを好むユーザーの存在、SDGsや今後世界の中心となるZ世代など日本でも着目されつつある要素が身近にあふれています。そのようなビジネス環境の中、日本を外から冷静に見つめつつ働くと、「日本の未来に何を還元できるか、チャレンジし続けよう」という思いに至ります。

生活を支える多くの分野でグローバルにICT技術が活用される世の中ですので、広範な分野に関心を持ち、ニーズを捉えた企画立案を行える人が総務省には求められています。海外勤務でグローバルに成長するチャンスもありますので、皆さんも総務省でのキャリアパスを想像してみてください！

ドイツでの武者修行

私は現在、人事院の行政官長期在外研究員として、ドイツのパッサウ大学で情報通信技術について幅広く学んでいます。

ドイツの国公立大学は、外国籍の学生であっても授業料が原則無料であることもあり、パッサウ大学にも様々な国籍の学生が在籍しています。そのため講義はドイツ語のみならず英語でも行われるわけですが、二つの言語を瞬時に切り替えることは良い刺激になる一方で時に混乱が生じ、私にとっては訓練の日々でもあります。このような環境に身を置いて勉学に励むことで、自身の語学力やプレゼンテーション能力の向上を図りながら情報通信分野の専門的知見を深めています。

また、パッサウ大学では互いの言語を学びたい学生同士が交流するタンデムパートナー制度が盛んに活用されており、

私もこの制度を利用して日本に興味を持つドイツ人の学生と知り合うことができました。彼とは語学を学び合うだけでなく、お互いの文化や考え方などについて話すことで、私自身、これまで以上に日本を客観的に見る機会が多くなりました。

日々諸外国の学生とともに学ぶ中で、総務省が所管する情報通信分野は多くの国で非常に注目されていることを再認識し、その重要性を改めて感じています。この魅力ある分野に携わる総務省を、キャリア形成の選択肢として考えていただければ嬉しいです。